



専攻科だより

第29号

北海道富良野緑峰高等学校
農業特別専攻科
平成31年3月1日発行

贈ることば

校長 鎌田 到



専攻科修了おめでとうございます。農業従事の傍らでの学習で苦勞の多かったことと思います。

この2年間の本校での学習を今後の農業経営に活かしてください。

修了生の皆さんに私からひとつ饒の言葉を贈ります。

「Gritやり抜く力」です。

ここ数年、アメリカでグリットやり抜く力が注目されています。世の中で成功する人はどのような人か、アメリカの学者が様々な世の中で成功した人のデータを科学的に分析し、発表しました。その人が成功するかどうかは、生まれつきの才能よりも、1つの物事に継続して向き合いやり遂げる能力が重要だということです。才能や努力に続く第3の成功するための能力として注目を集めています。そして、このグリットとは、よしやるぞという「情熱」と決して諦めない「粘り強さ」が大切だということです。頭の回転が速く、目先の利く人ほど、やっていることのよくないところが目につき、悲観的に考え詰めてしまう傾向にあります。その困難を乗り越えるだけの想い、志を持てる資質を持った人が成功へと導かれていくことなのでしょう。

「継続は力なり」という言葉がありますが、まさにこのグリットを言い表したものです。失敗しても挫けず、挫折も自分を成長させる肥やしだと思える、前向きに取り組む気持ちを持って歩いていってください。

2年間を振り返って

修了生より



村上 之拓

自分は、農業をやりたいと思い妻の実家である上富良野に就農することに決めました。やると決めるときに思ったのが、「まずは、勉強したい」と考え、富良野緑峰高校農業特別専攻科で学ぶことにしました。

この2年間では、農業の基礎知識や経営学また、最新の技術と知識を学ぶことができました。卒業後は、まず自分自身の基盤をしっかりと作り、常に「チャレンジ精神」をもち、農業者として頑張っていきたいと思っています。



守田 嘉子

主人と一緒に新規就農を目指して農業研修に入り、そこで富良野緑峰高校特別専攻科を勧められたご縁で入学するに到りました。専攻科で基本を学ぶことで作業しているだけではわからなかったことがわかるようになっていきました。

農家さんの言っている意味が少しずつでも理解できるようになるのは面白い体験でした。

時間的なシビアさはあったものの、農業研修と同時進行することで吸収率は上がったと実感しています。二年間大変有意義に勉強させていただきました。ありがとうございました。



守田 大助

私は、全く畑違いの仕事をしていてからの新規就農を目指して富良野に来ました。今回、農業研修を始める際、担い手育成機構から農業特別専攻科のことを聞き、入学することを決めました。

この専攻科で学んだことにより、基本的な農業知識を得ることにより、農家さんの話す内容が少しづつ理解することもでき、さらに、専攻科での研修で他の農家さんのお宅にお邪魔させていただき、色々なお話や体験談なども聞いたことでとても刺激を受けました。ここで学んだことを自分の営農に生かして行きたいと思います。本当にありがとうございました。



松本 祐季

振り返ってみると、2年間はあっという間でした。正直、最初に富良野緑峰高校農業特別専攻科のお話を、研修先で教えていただいたときは、乗り気ではありませんでした。

しかし、先生方や同じ学生の方々に様々なことを教わり、過ごした今では、専攻科に行ってよかった、そう、素直に思えます。若輩者ですが、今後とも頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



石岡 翔太

高校を卒業してから上京して五年間アパレル業界で仕事をし、Uターンで就農してからあっという間に三年の月日が経ちました。家族を支え、地域の人たちに認められる経営者になることが目標で、親から学ぶ以外にもっと色々な知識をつけたいと思い、富良野緑峰高校の農業専攻科に入学しました。

専攻科はUターンだけではなく、新規就農者や経営はしていないけど農業を学びたい人など、年齢も様々で色々な想いを持った人達が集まる場所で、農業だけを学ぶ場所ではなく、一人ひとりの考え方を学ぶことにより自分自身が成長できる環境でした。専攻科の会長を任せられ、本校の学園祭に専攻科の取り組みなどを地域の人たちに知ってもらう為に参加したり、各学年のレクリエーションの企画や研修先への挨拶など、家の仕事もしながら考えたり、企画したりなどとても大変でしたが先生方の協力もあり無事に終えることができました。道外研修で埼玉県農家の二週間の研修に参加したのはとても貴重な経験だったと感じています。道外研修は専攻科に通っていないと、経験できない研修内容で北海道と埼玉県の農業の違いなどを実際に肌で感じる事ができ、自分の経営にも活かしていこうと思います。入学してからの二年間はとても早かったと感じます。高校と違い一年に約70日しか登校しませんが、その限りある日数の中で、農業の基礎から応用まで学び、色々な研修先で知識をつけ、学年関係なく自分の意見を言い合える仲間を持ち卒業できることが、改めて専攻科に入学して良かったと感じています。



藤浪 則文

東山でミニトマトの新規参入研修中にもっと農業の勉強がしたいと思い専攻科に入りました。

視察研修では自分では行かない所や人数が少ないので興味のある研修先に行けとても勉強になりました。農作業があり夏は授業に全然出られなかったのですが、先生方のサポートと補習でなんとか卒業できました。

来年からは独立なので学んだことを活かし営農していきたいと思っています。